

★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

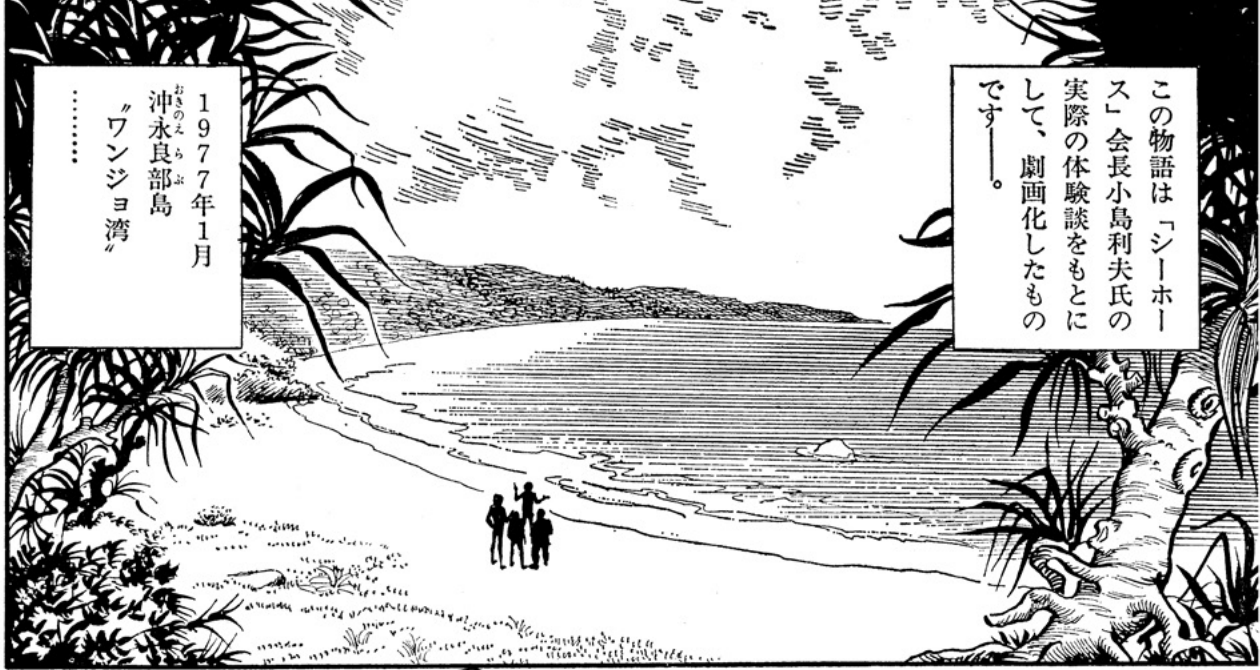
怒濤の白い牙



かたおか徹治

この物語は「シーホース」会長小島利夫氏の実際の体験談をもとにして、劇画化したものです！。

1977年1月
沖永良部島
「ワンジョ湾」



この島は風光明媚な観光地。造礁サンゴが発達し南方系の魚も豊富でオレたちダイバーにとって、絶好の潜水ポイントだ！。

ポイントは200メートル先の海底だ

沖は黒潮本流が流れているから湾外には出ないように





潜水時間は
約40分

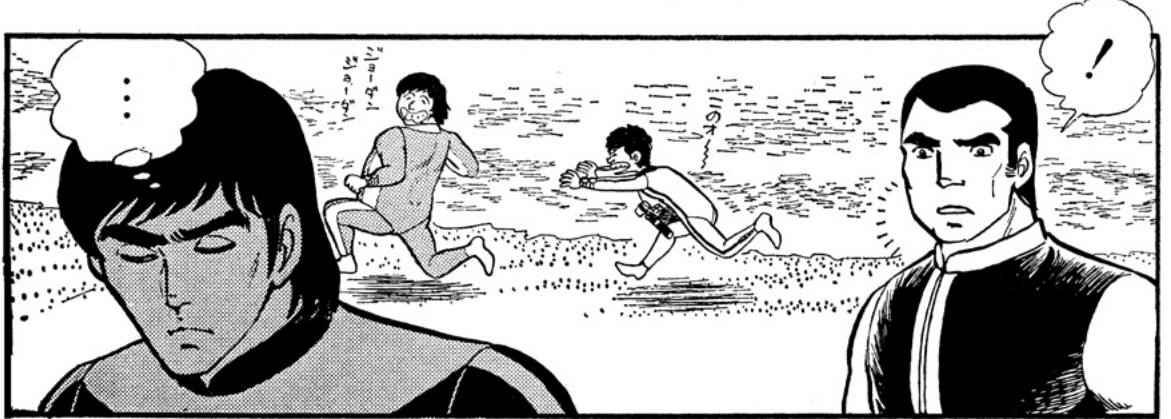
残圧計が
60"に
なったら
浮上する

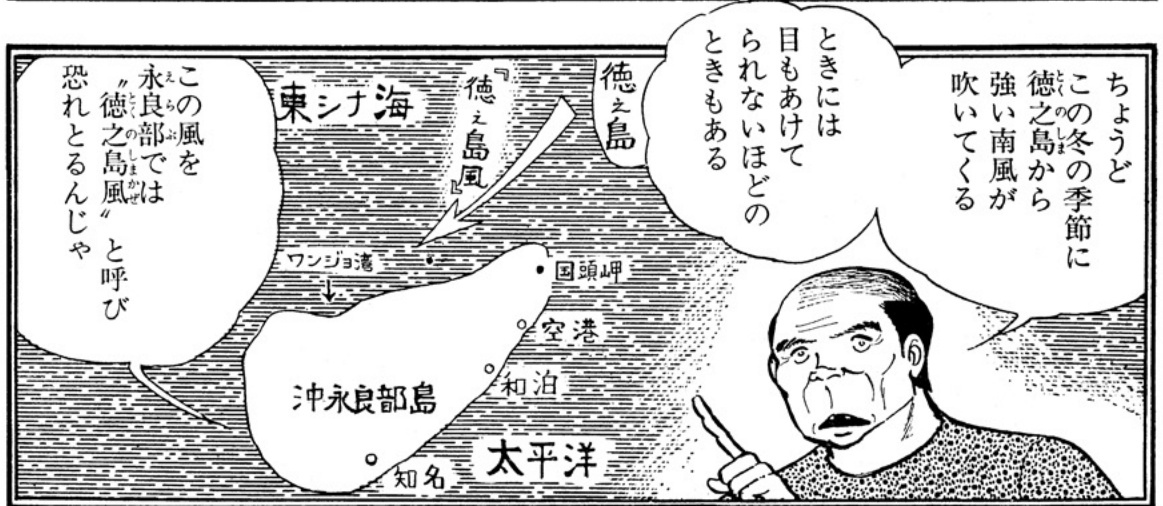
そのとき
水深3坪の
ところで
減圧するから
バディと離れない
ように

おい
なにをニコニコ
してるんだい

へへへ……
この海なら
今年こそ
コンテストに
入賞まちがい
なしと
思ってるね

ウシ
海じゃなくて
腕がワルかったり
して……





ことに
ワンジョ湾は
この風を受けて
ずいぶん被害を
出しとるんじゃ

でも
だからといって
今日そいつが
くるとは
かぎらないぜ

そうともさ
オレたちや
初めてダイビング
するってわけじゃ
ないんだぜ



しかし
みんな……

いいの
いいの
気にしない!!



それに
今日潜らなきや
正月休みが
なくなつちやうぜ

平気
平気
こんな
ベタな
じゃないか



こうしてわれわれは
民宿の主人の
言葉を無視して
沖へ向かった!

海が恐くつて
潜れるかってん
だい

そー
そー
こなくつちや
!!

そ
そうだよな
……
天気も
そんなに
悪いとも
思えないし
……





ひえ〜
サカナの壁
だぜ



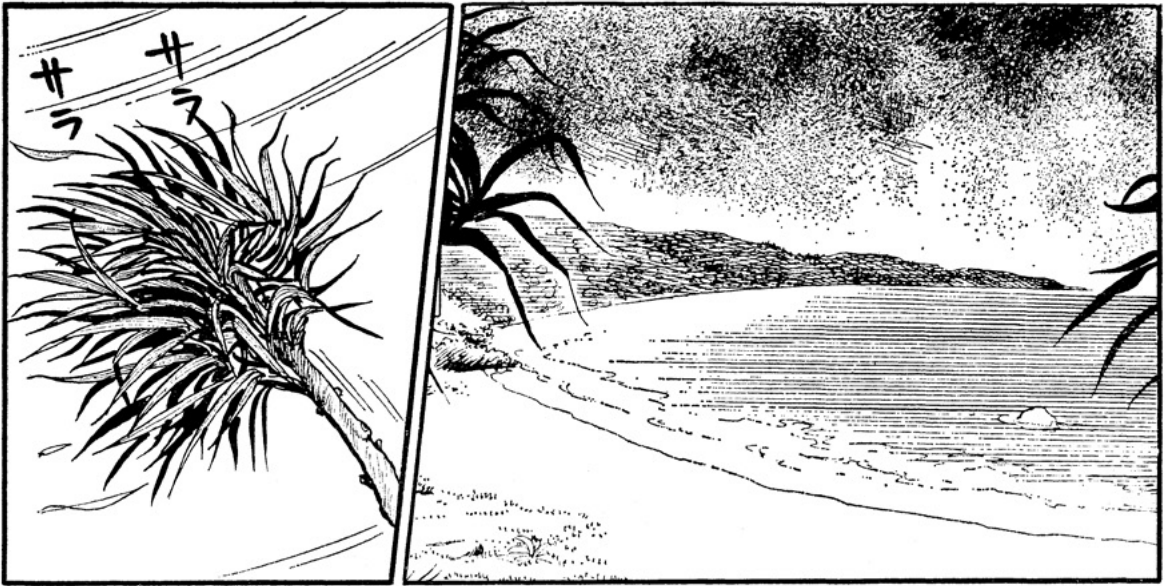
ハイ!!
カワイコちゃん
こっち向いて

入賞
まちがい
ナシ!!

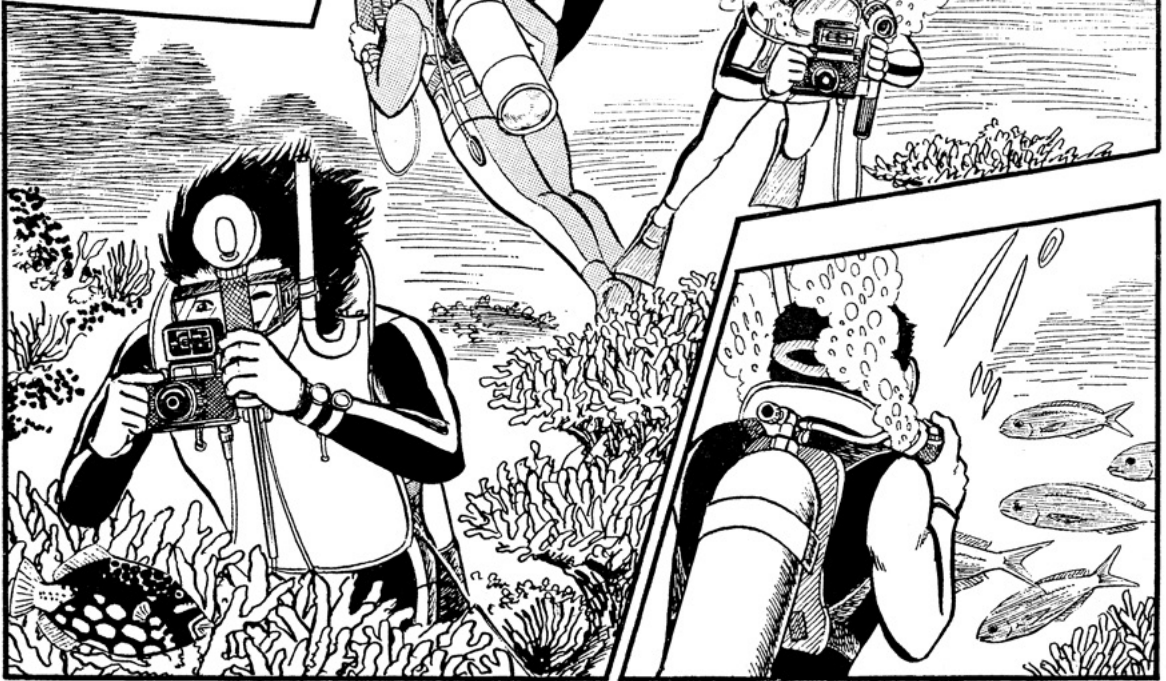


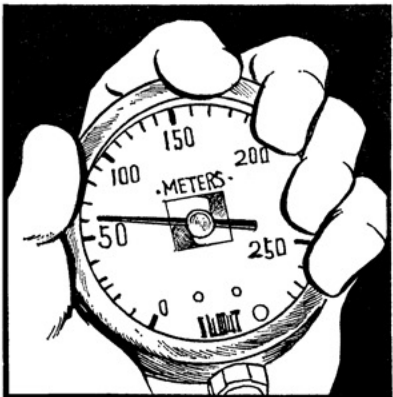
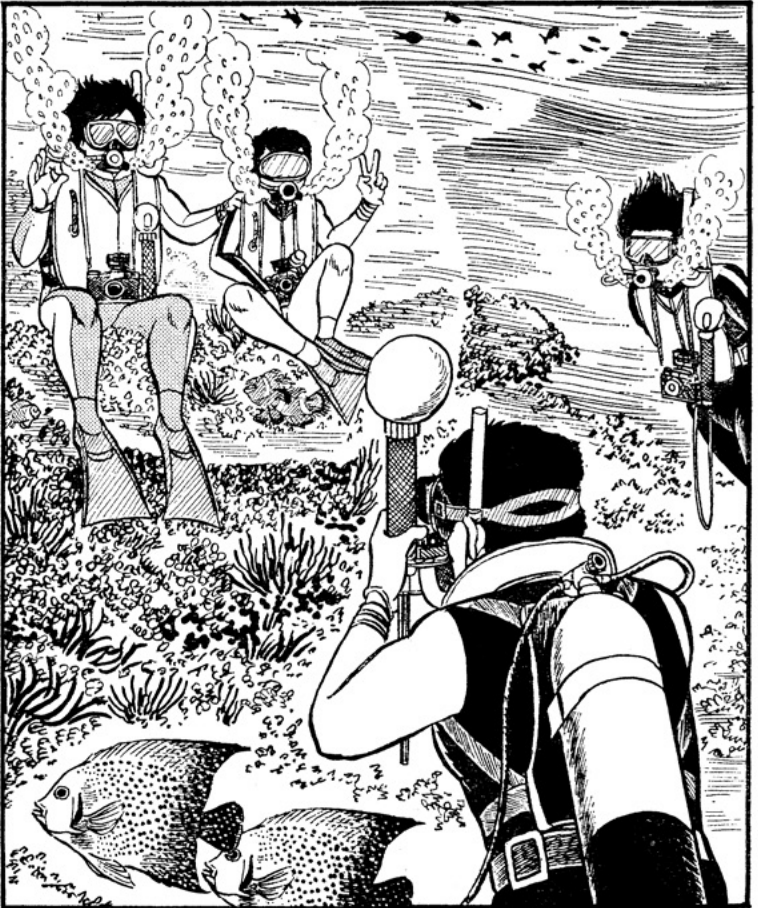
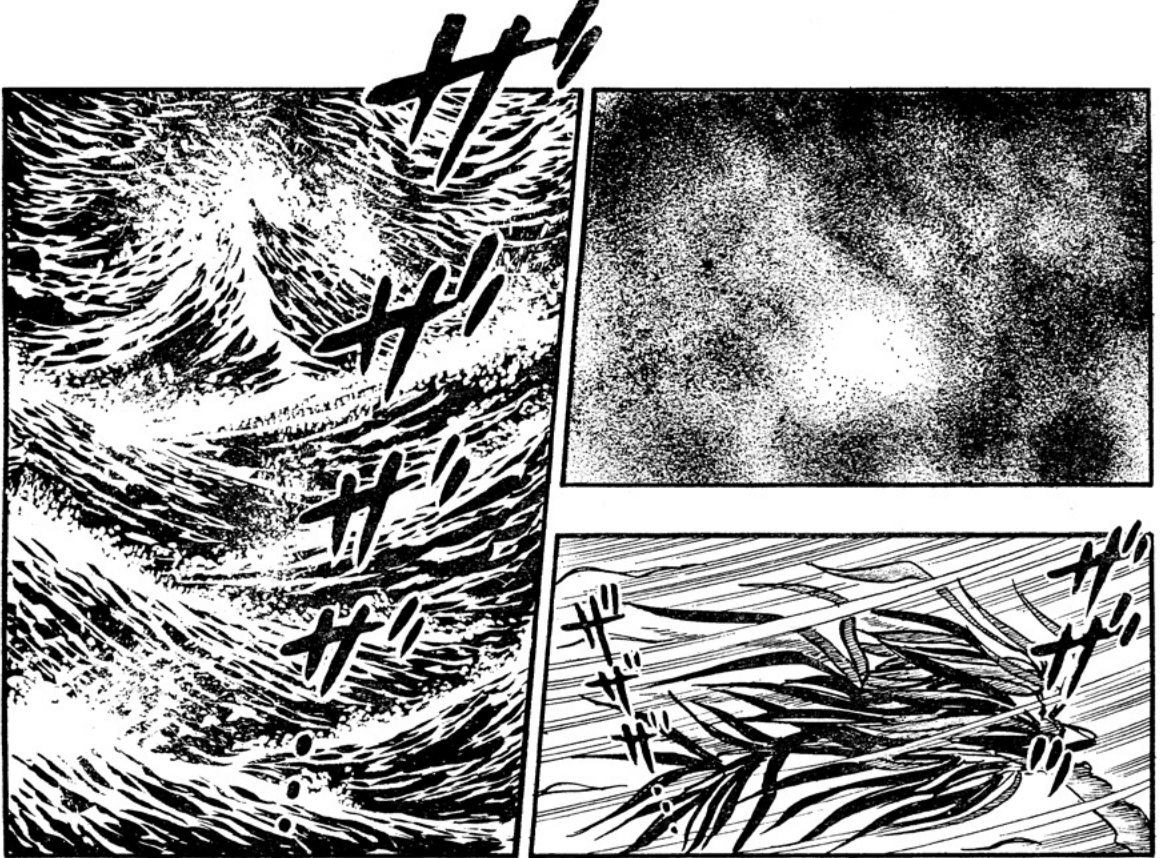
.....





われわれは
すばらしい海底景観に
夢中でシャッターを
切りまくった……
時間がたつのも
忘れて……



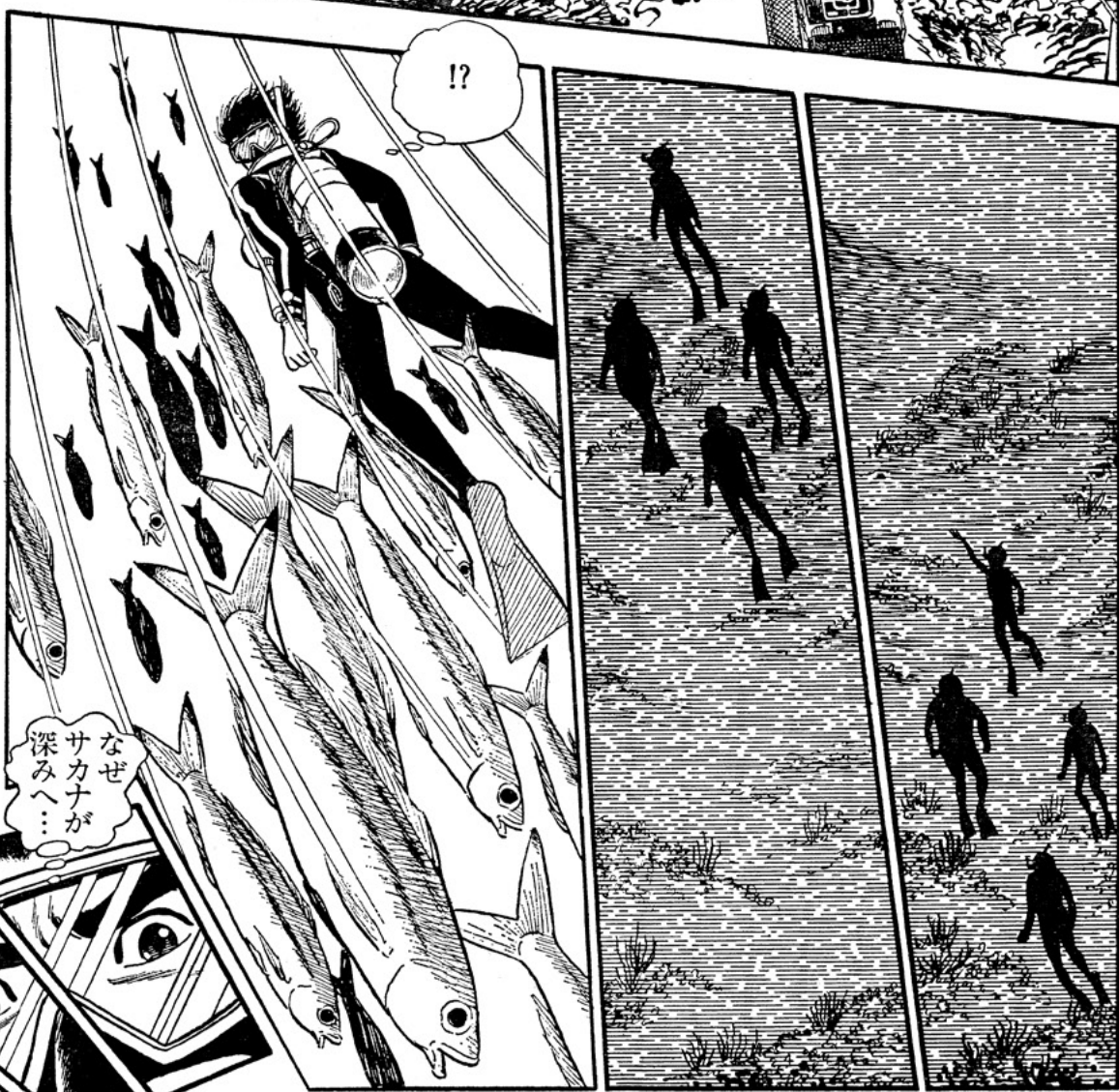




そろそろ
浮上ろうぜ

もう
そんな
時間!

OK!!

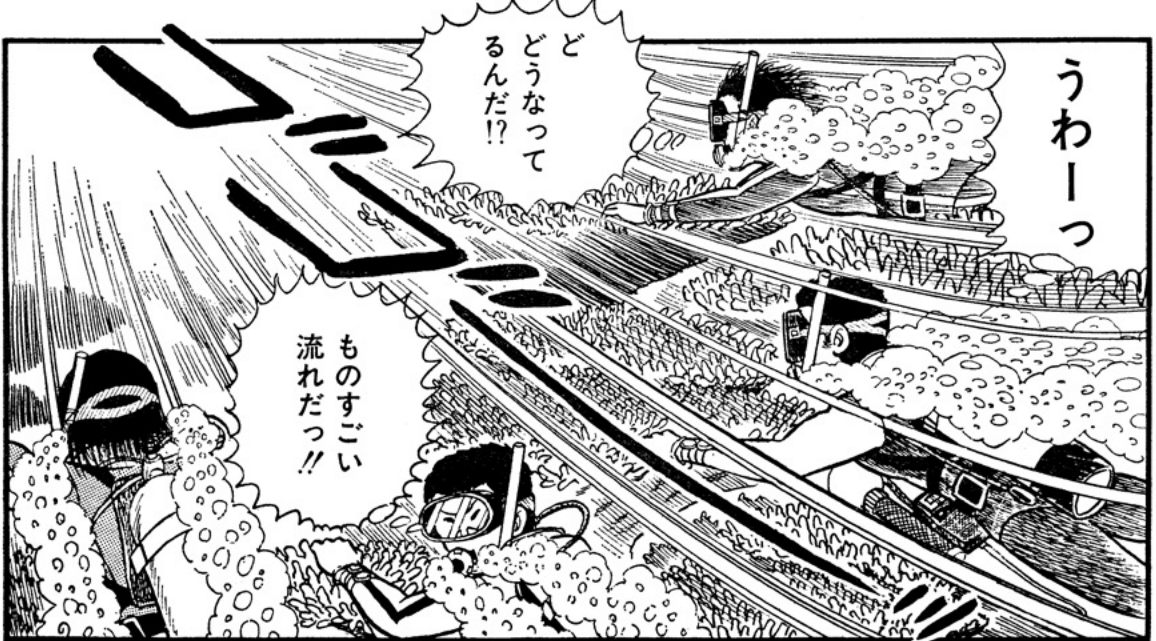
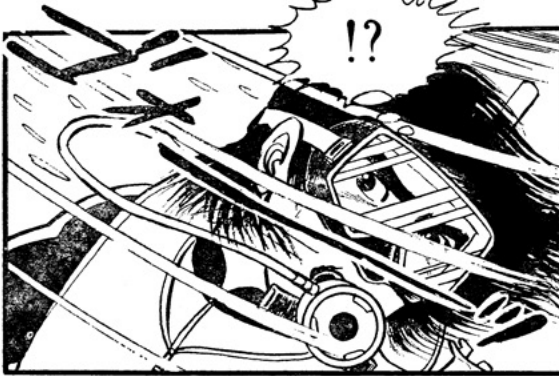


!?

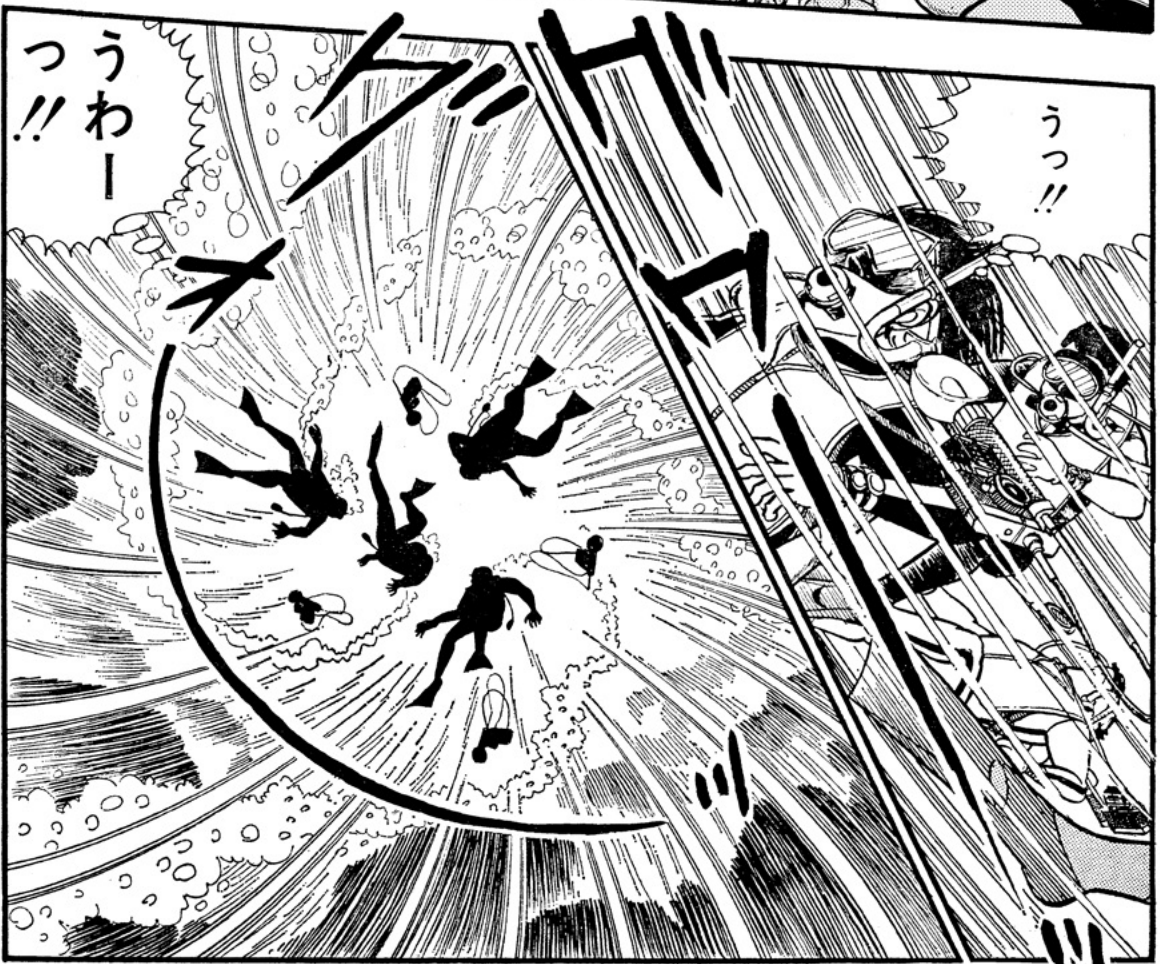
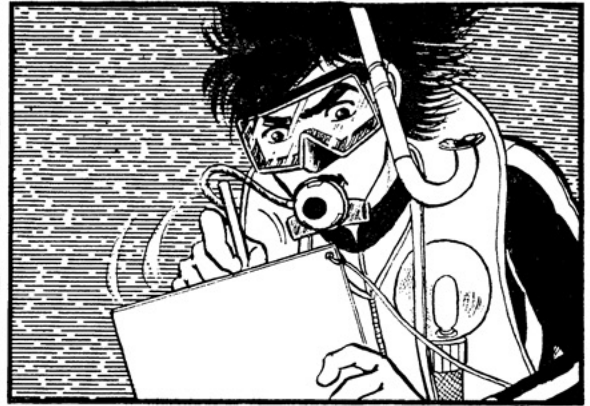
なぜ
サカナが
深みへ...

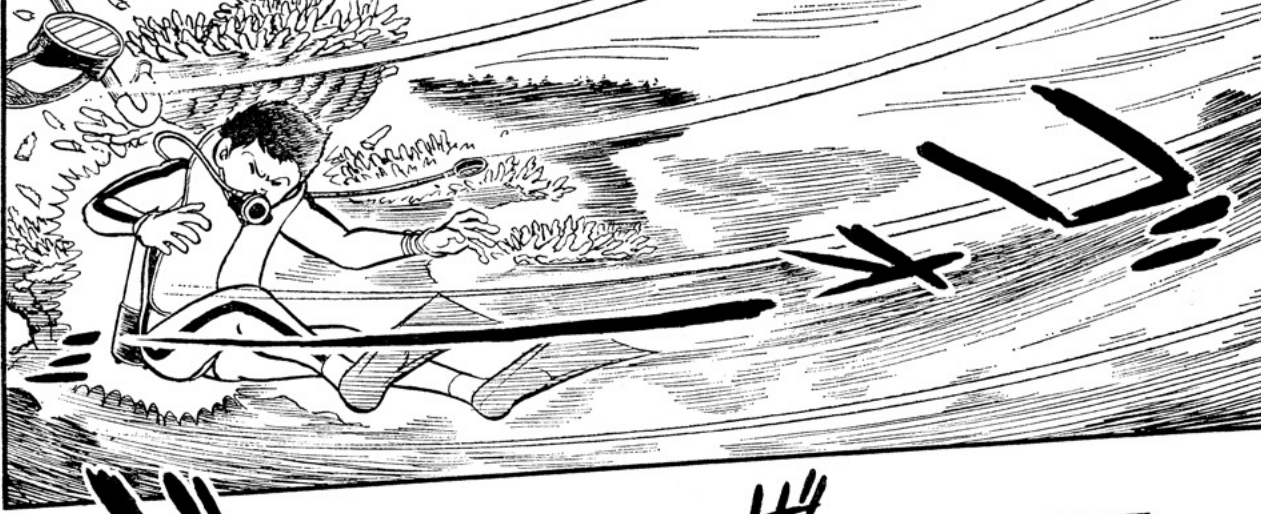
ダイビング
コーナー

大島たちの潜水時間は35分。最大深度は水深25メートルだった。このため水深3メートルで7分の減圧を必要とした。(労働省の減圧表による。この減圧表は本誌発行の「海底散歩の実用百科」に掲載されている。)また本誌67号にも減圧表の関連記事があるぞ!

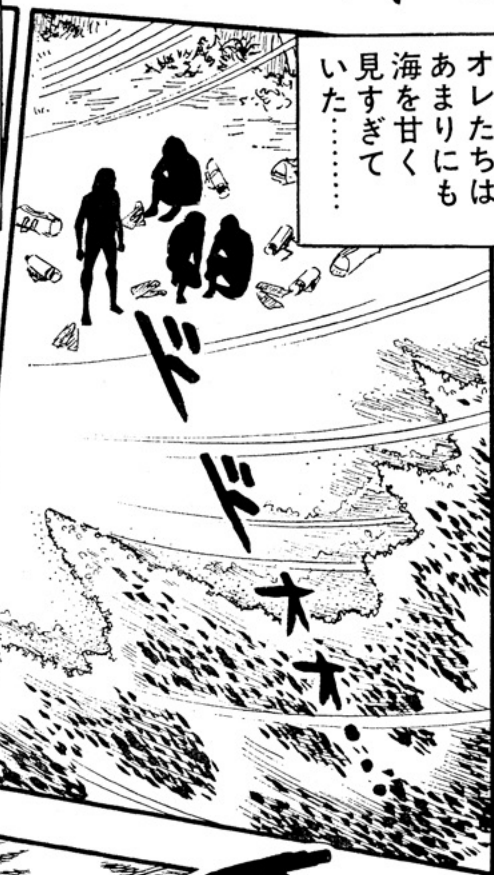


海面は荒れている!!
浮上せず水深計と
コンパスを使って
リーフにあがれ!!









壁川は
やっとの
思いで
サンゴから
脱出したが
片足を骨折し
……

笹田は
マスクと
カメラを
失い……

山中は
鼓膜を
破った！



リーダーとしての
資格を……!!



そして
オレは
……

第1話完



かたおか徹治の作品ノート 『怒濤の白い牙』

この、『怒濤の白い牙』は、株式会社水中造形センター発行の「マリンドイビング」に、創刊10周年記念企画として、1978年1月号から6月号まで連載した『死神を見た男たちシリーズ』の第1話です。

スキューバー未経験の私は、第1話の原稿納品後すぐの1977年末に、当時はまだ水中造形センターの社員で、後に鯨類の写真集やビデオを何点も出版された、水中カメラマンの望月昭伸氏に、真鶴海岸に連れて行って頂きました。編集部としては、作者がスキューバーを体験していないとまずい、と言う事だったんでしょう。私はスキューバーに関しては前から憧れていたもので、勇んで真鶴に行きました。

優しく丁寧な指導で望月さんに教えて頂きましたが、当日私は『耳抜き』が出来ず悪戦苦闘しました。でも、シュノーケリングからスキューバーまで普段出来ないことを体験でき、楽しい時間をすごせました。

(ただ、その翌日から1週間ほど鼻血が溜まり、夜中思わぬ時間に目が覚めたりして、これから習おうと思っていたスキューバーを諦めてしまいました。コツを覚えればきっと出来たんでしょうが…。)

その後、望月さんからは電話を頂き、彼もマンガが好きで、近いうちの再会を約束していたのに、それが2度と叶いませんでした。

1999年3月小笠原沖でザトウクジラの水中撮影中に行方不明になられたニュースを見て愕然としました。奥様にも電話させて頂きましたが、事故当時、お亡くなりになった検証が出来なかったとの事で、ご家族に何とお話しすればいいのか言葉を失ってしまいました。

今となっては、たくさんの思いれのあるこのシリーズですが、今手元にあるのはこの1話のみです。掲載誌をお持ちの方は編集部までお知らせください。メールアドレスは・sinturezza@gmail.com